

特集 第10回 SRお客様交流会

2010年2月5日(金)
in 大田区産業プラザPiO

お客様に支えられ、第10回目を迎えることができました(参加実績:約80名60社)。ありがたく感謝しております。

ご講演

1. セイフティレコーダ導入後の弊社取り組み事例
新雪運輸株式会社 殿 P1-2
2. 安全を生み出す『前山運送流』社内体制づくり
前山運送株式会社 殿 P3
3. 意見交流レポート in 交流会
SRセミナースケジュール P4

特集
1

セイフティレコーダ導入後の弊社取り組み事例

新雪運輸株式会社

営業部 部長 菅野 高弘 様(左) 本社営業所 所長 眞壁 秀司 様(右)



新雪運輸株式会社

本社所在地: 埼玉県川口市芝高木1丁目7番14号

TEL: 048-269-1441 FAX: 048-269-1144

設立: 1970年10月

営業拠点: 本社・東川口・新座・鶴ヶ島・日野・野田・湘南 各営業所

代表者: 代表取締役 瀧澤 裕司

事業内容: 一般貨物自動車運送事業/貨物運送取扱事業/サードパーティロジスティクス事業/損害保険代理店業務

従業員数: 約300名(構内作業、パート社員含む)

車両台数: 冷凍車2t~25t(199両)、ウイング車、その他 合計207両(うちCNG車13両)

SR導入: 2006年 SRcomm順次取り付け/2007年 全台にSRcomm導入完了 6営業所にSRVideo 各1台導入

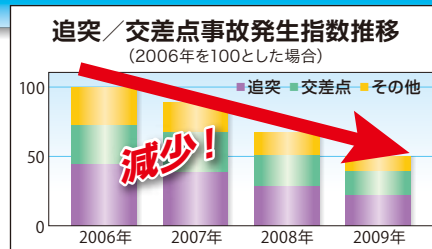
会社概要



本社外観

1 SR導入の効果

1. 事故減少傾向(事故内容が変化!)
2. 燃費向上(大型7%、4t 2%、2t 12.5%up)
3. 新人ドライバー教育に有効(ひとり立ち後の走行を診ることが可能)
4. 温度管理を一括できる



2 SR導入の背景と課題

事故の削減にはどうしたらいいか。車間距離の確保、低速度での確実な安全確認、運転中の集中力の維持についてなど、細かく分析し対策を打つことが必要と感じていました。そこで、埼玉県トラック協会等の意見を参考に「安全運転の状態がわかる」SRの導入を決定。

しかし、現場からは「点数で評価されること、機械で管理されるのはイヤだ」、「そこに経費をかけるならその分を自分たちに還元してほしい」などの抵抗もありました。会社は経営理念にあるように「お客様第一。安全第一。品質第一」を達成するためと現場を説得。全車両に導入しました。

3 SRを有効活用した社内制度づくり

●営業会議の開催(1回/月)

(社長、役員、部課長、各営業所長、本社管理部門と会社の中核を担う担当が全員参加)

全社の課題を共有し、解決策を考える場

- ①各営業所の経営数値目標・実績報告および検討(各所長)
- ②本社からの議題並びに本社統一連絡内容(営業部長他、本社部門)
- ③営業会議総括講評(社長)
- ④挨拶の訓練および指差し呼称 等

SR解析レポート発表および意見交換

●SRの点数による褒賞制度

車両種類別、上位者表彰、前月より最も点数の伸びたドライバーには、努力賞

映像
紹介

SR解析レポート発表(全社・各拠点傾向)および意見交換
現場経験者からのアドバイス

- ①車間距離あけさせる
- ②スピードを落とさせる

2点だけで簡単
早速実行しなさい!



現場経験者

社長

新雪運輸のドライバー&管理者のコミュニケーション

- 管理者とドライバーが一緒になって1日の走行を振り返る
- データの悪いところをドライバーと共に考える
- 前日の指導ポイントが改善されて、点数upした時には、必ず褒める
- 低得点運転者に対し、点数の高いドライバーや管理者による同乗指導

欲張らず、ひとつの項目に絞って改善を図る！

STEP 1 『ブレーキ』

〔ブレーキの急激さ〕

現状よりもあと2m車間距離を長くしよう

〔停止時のタイミング〕

アクセルを踏んでいる状態から、すぐにブレーキを踏むのではなく40km/hぐらいまでエンジンブレーキ(アクセルoff)の状態で行き、時間をかけて停止しよう

点呼時の
映像
紹介



STEP 3 『スムーズ』

散布図とヒストグラムからアクセル・ブレーキ・ハンドルの状態を検証

〔アクセルの場合〕

「ふんわりアクセル」を心がけよう

〔ブレーキの場合〕

走行中の排気ブレーキの使用状況は？

〔ハンドルの場合〕

(散布図30~40km/hに赤い点が集まっている場合) カーブの速度が落としきれていない！

ブレーキの点数が上がったら
「ハンドル」へ



STEP 2 『ハンドル』

ハンドル操作は速度を落とし、ゆっくりと。片手ハンドルや内掛けハンドルは行わない！

進路変更はなるべく少なく、進路を変える場合は早めからハンドルを切り始め、その角度を小さくしよう

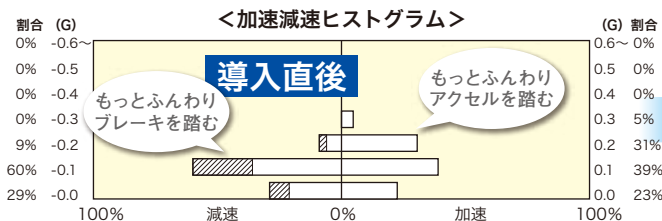
交差点ではしっかりと速度を落として走行

ハンドルの点数が上がったら
「スムーズ」へ

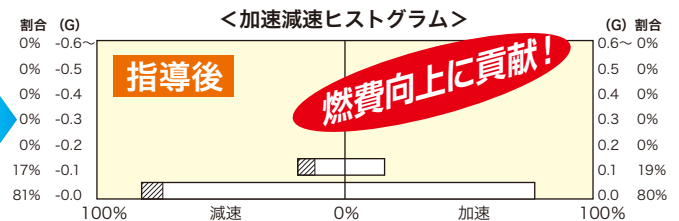


●点数、散布図だけではなく、「ヒストグラム」も併せて一緒に確認

2. アクセル・ブレーキの状況



2. アクセル・ブレーキの状況



まとめと今後の課題

ドライバーと管理者が一体となることで、点数up、燃費上昇、事故が減ることは確認できました。今後の課題は、①構内の軽微な事故の撲滅、②点数の悪いドライバーや停滞中の

ドライバーへの底上げ指導、③大型車から中型・小型へ車両を乗り換えた時の運転癖を治すこと。SRを更に活用し、課題解決に注力していきます。

交流会で安全・環境(CO₂削減)運転に関する展示紹介を行いました！



安全機器コーナー

- ・事故分析資料の配布・説明
((財) 交通事故総合分析センター)
- ・ドライブレコーダ映像を用いたKYTの紹介
((独) 自動車事故対策機構 (NASVA))
- ・呼気アルコール測定器の紹介 ((株) 坂口技研)
- ・呼気アルコール測定器の紹介 (東海電子 (株))

環境 (CO₂削減) コーナー

- ・タイヤ監視/表示装置の紹介 ((株) ロジン)
- ・ペバストヒーターのご紹介
(ペバストジーシーエスジャパン (株))
- ・畜熱仮眠マットの紹介 (日発販売 (株))

SR関連コーナー

- ・エコフリートPROの紹介 (三菱ふそうトラック・バス (株))
- ・SRアナライザーシステムの紹介
(日本システムリサーチ (株))
- ・運行チェッカーの紹介 ((株) 大分日本無線サービス)
- ・SR導入事例紹介 ((株) イーテス)

データ・テック展示コーナー

- ・SRnetworkサービス
- ・SR相談コーナー
- ・SRフォーラム
- ・特許紹介

※順不同、敬省略

前山運送株式会社

営業課長 兼 神田山営業所長 **染谷 俊夫** 様



会社概要

前山運送株式会社

会社名：前山運送株式会社
本社所在地：茨城県坂東市神田山1129
TEL: 0297-36-0011 FAX: 0297-36-0015
営業拠点：神田山営業所・郡山営業所
設立：2009年10月1日（前山倉庫（株）より分社）

代表者：代表取締役 横山 清
従業員数：69名
事業内容：混載物の輸送
車両台数：大型58両、4t車2両、トレーラー6両 計66両
SR導入：全車両にSRPocket導入済
※SRNEWS 46号でも「前山倉庫（株）」の取り組みをご紹介します



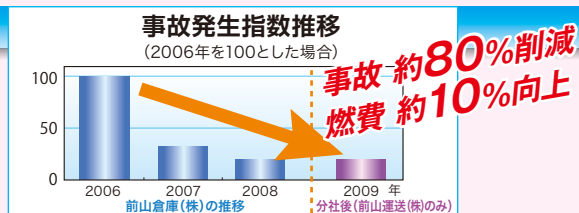
1 SR導入による取り組みの効果

事故激減に成功! 車両保険・修理費等の大幅なコスト削減という成果

危険挙動件数も半減
SR点数も上昇



事故の内容が
軽微なものに変化



2 SR導入だけでは事故は減らない

とにかく事故を減らしたい、そのためにSRを導入したが、人任せ、物任せでは事故を減らすことはできません。「安全とは何か?」という課題と正面から向き合うことが必要です。ドライ

バー、管理者はもちろん、社内の環境も含めた社内に潜む安全意識の根本から改革する必要がありました。

3 SRを有効活用できる社内環境づくり

“前山運送流” 環境づくり



ドライバーと一緒にスティック
抜き差しを練習をしました!



手作りのメモリースティック
保管ボード



ドライバーが話しやすいよう
営業所とは別棟に点呼場を設営



点呼時にドライバーと対話

指導者（運行管理者） 教育

ドライバーに話を「聴いて」もらうためには…**指導者（運行管理者）側がまず勉強すること**
①「目で見る資料」を使い、②「聴いて」もらえる力をつける

①「目で見る資料」（公平で明らかな根拠）

【過去の状況】

- ◆社内事故報告書
 - ・再発防止策
 - ・教育指導記録
- ※3年間分から分析
- ◆同業他社事故事例
教育指導記録



【ドライバーの運転クセを把握】

- ◆SR データ
 - ・運転診断結果（点数）
 - ・危険挙動
 - ・1ヶ月の平均結果
 - ・1ヶ月のパロメーター
- ◆適正診断結果



②「聴いて」もらうためのノウハウ

【ドライバーが聴きたくなくなる話し方の習得】

- ・まずは、褒める
- ・ドライバーが受け入れやすい言葉で話す
- ・指導者とドライバーの会話比率に気をつける
- 外部研修にも参加し、指導する側としてのコミュニケーション技術を身につける

点呼時の 映像 紹介

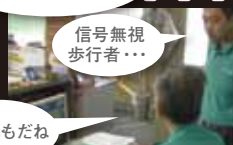
ブレーキと停止
よくなっている



気をつけるのは
右左折!



自転車もだね



信号無視
歩行者...

交差点は
十分に減速してから
進入する



①よくなった点を褒める ■ ②次に改善点を伝える ■ ③状況を一緒に考える ■ ④改善策を指示 ■

まとめ

ドライバーと運行管理者の毎日の「対話」を積み重ねた結果、日常から安全を意識した運転が身につき、事故削減の効果を得ることができました。その成功の秘訣は、実施する項目を定め、毎日することは、確実に永久的に実行すること。継続は力なり。社内の環境づくりも含めて、全社一体での徹底した実行力がドライバーにも、社内全体にも影響することは間違いありません。



スピードを控え
車間距離をあけることで
周りが見えるように
なりました

※SRNEWS 46号でもご紹介しています。あわせてご参照ください。

意見交流レポート

in 第10回SRお客様交流会

当日グループ毎に意見交流を行いました。
現場で実際に使用しておられるツールのご紹介や、悩み解決の秘訣など、和気あいあいとした雰囲気での情報交換がなされました。

【マンネリ化防止】

●コミュニケーションをとる

話していると言うが本当に話していますか？

●心を聴くことが重要

●常にプロドライバーとしての意識を持ってもらうよう 管理者が引っ張っていく必要がある

●怒ることよりも褒める ことの方が改善されて ゆく。ドライバーの心 をくすぐる



【どうしても点数が上がらない人への指導方法】

●同乗などマンツーマンで指導する

●車種・積載物・天候などの情報を蓄積する

【得点の掲示方法】

●全員分掲示している

(下位は同乗等の“フォロー”を行い、くさった気持ちにさせない)

●上位のみ掲示

●全員のデータは管理活用



【運用方法】

●車両台数多く、帰庫時間不規則

・店所長がドライバーの都合に合わせ指導

●営業所毎のデータ活用情報

・営業所は余裕がないので本社で作成して使用
・ドライバーの中で個々に工夫して活用

●表彰制度

・クオカードをプレゼント
・部門別に分けて表彰していた

●マンネリ化防止

・ソフトで(毎月変えられるような)変化をつけられないか。データの見せ方など



【乗務員指導の仕方(バス)】

●わざと危ない運転を再現してみせ、同乗させる

●管理者とドライバーが対話しながら一緒に映像を見る

【安全意識向上(乗用車)】

●ドライバーと面談して改善しない場合

・運転が仕事という意識が低い

ドライバーのためという姿勢を持って指導する

●運転が悪くないのに点数が低い

・一時停止しているかどうかを確認
・ドライバーの中で個々に工夫して活用

●何点を目標にすればいいか

・点数は項目毎に点を上げていく
・定期的に様子を見て目標を変えていく



今回は意見交換会をより充実させ、SR導入によるお客様同士のきめ細かな社内展開を話し合うことができました。
ご出席の皆様に、貴重な情報として持ち帰っていただけたことと思います。

株式会社 **データ・テック** のお得なフォローアップ情報(セミナー)

参加無料!

SRセミナー定期開催!

当社ではアフターフォローの一環として、SRセミナーを開催しております。

- 運転診断結果などデータの見方について
- SR活用状況についての意見交換



スケジュール

参加には、**事前申込み**が必要です。

●…予定

	3月	4月	5月	6月	7月
関東地区	—	4/20(火) 東京		● 埼玉	SRお客様 交流会 7/9(金) (東京 大田区蒲田)
関西地区	—			● 大阪	
その他地区		4/15(木) 愛知	5/14(金) 福岡	● 札幌	

※日程、会場等は都合により変更する場合があります。変更になる場合は事前にご連絡いたします。

株式会社 **データ・テック**

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
http://www.datatec.co.jp